

リスクコミュニケーション社会開発プロジェクト

大迫政浩
秋山 貴

(プロジェクトメンバー)

平山、田崎、滝上、佐野、多島、森、大塚

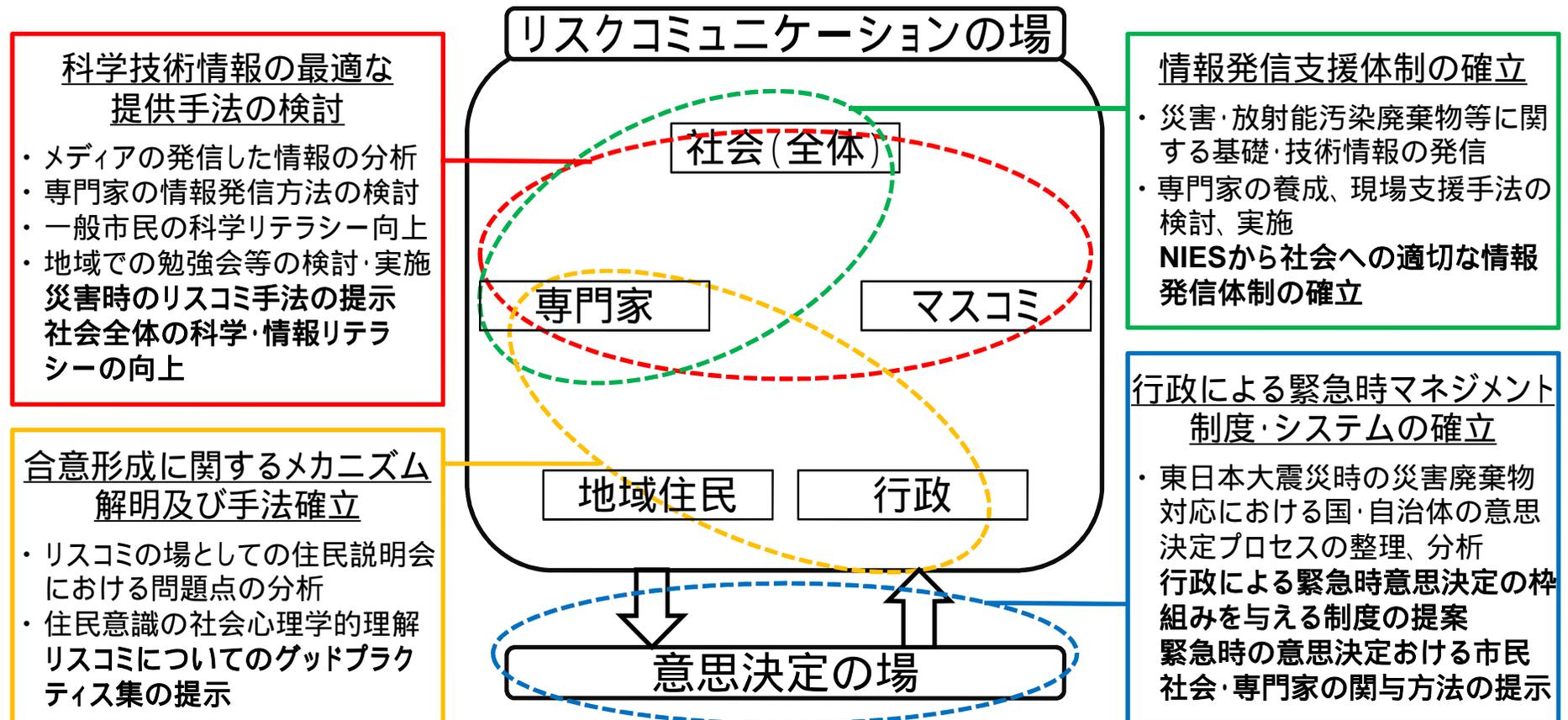
リスクコミュニケーション社会開発プロジェクト 概要

目的及び達成目標

地域や社会全体におけるリスクコミュニケーションの場の成立に向けた基礎的要因の整理を行うとともに、それに資する技術的情報発信や人材育成を行う。さらに、それらを踏まえた意思決定の場における緊急時行政マネジメント手法の提案を行う。

研究概要

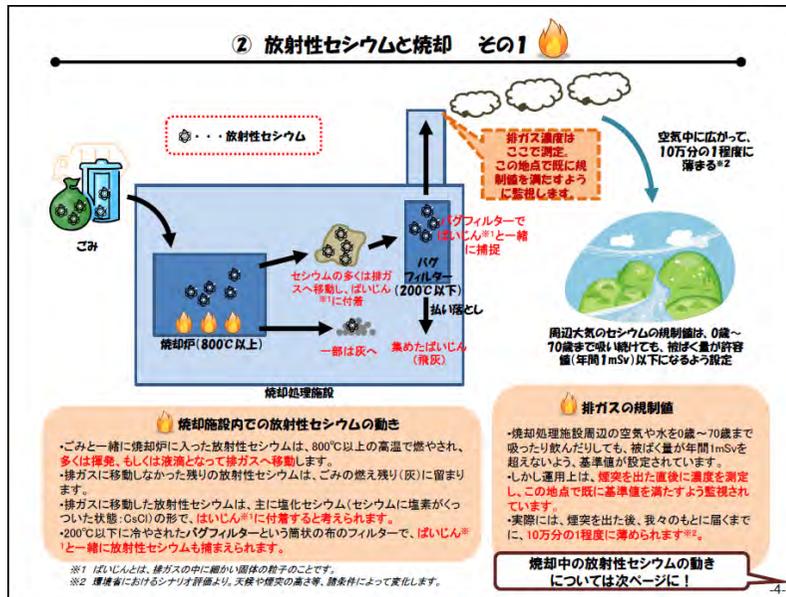
研究体制 平山、大迫、田崎、滝上、秋山、佐野、多島、森、大塚



リスク社会開発PJ 成果まとめ

H24年度の研究成果まとめ

- リスクコミュニケーションの場としての住民説明会の現状把握と、より良い住民説明会の実施に向けた課題の整理、より良い情報発信に関して専門家の情報提供の可能性の提案
- 放射性物質を含む廃棄物の適正な処理処分方法についてまとめた技術資料(第一版～第三版)、技術資料概要版(日本語、英語)、放射性物質を含む廃棄物に関するQ&A(入門編)の作成とWEBでの公開
- 専門家育成に向けた情報収集とそれに基づいた研修プログラムの作成、専門家育成セミナー(計3回)の実施



特定一般廃棄物処理セミナー

平成25年 日時 2月1日(金) 9:55~16:15
会場 千代田区立内幸町ホール 東京都千代田区千代1-17-01(03-3500-5578)

～特定一般廃棄物処理の現状及び課題を考える～
対象：行政、コンサルタント、プラントメーカー
定員 100名
参加無料

東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性に汚染された廃棄物の適正処理に当たっては、放射性物質汚染対処特措法の施行命令に基づき、特定一般廃棄物の処理は地方自治体が担う大きな課題であり、実務を担う自治体職員等は、適正な処理技術や住民対応など、その専門的な知識や技術の習得により能力の確保が必要です。このことから、地方自治体及び関係者の皆様へ幅広く安全・効果的な処理の促進のための必要となる知見や知能等の情報を提供すべく「特定一般廃棄物処理セミナー」を開催いたします。

プログラム(要綱)

- 9:55~10:00 集合挨拶
- 10:00~10:30 「廃棄物処理と放射能」 高田産業大学システムイノベーション 研究開発 田中誠氏
- 10:30~11:15 「放射能測定計の特性と運用、ボトムアップ」 公益財団法人廃棄物・リサイクル研究所 事業開発課 若山直樹氏
- 11:15~12:15 「福島県における放射性廃棄物の処理」 独立行政法人国立廃棄物処理研究センター 長 大塚誠典氏
- 12:15~13:45 「東京二十三区清掃一線の特徴について」 東京二十三区清掃一線事務所 施設管理課 課長 藤原尚氏
- 13:45~14:15 「自治体における特定一般廃棄物処理の現状」 株式会社放射能対策推進 室長 松本一氏
- 14:15~15:00 「放射性物質汚染対処特措法の施行命令」 株式会社環境工学研究所 司馬真一氏
- 15:00~16:15 「放射性物質汚染対処特措法の施行命令」 株式会社環境工学研究所 司馬真一氏
- 16:15~16:30 集合挨拶

※上記内容は随時変更の可能性があります。発表者の都合等により、プログラムの一部変更する場合があります。

主催 独立行政法人国立環境研究所
運営 公益財団法人廃棄物・3R研究財団

特定一般廃棄物専門家育成セミナー 受講修了書

東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射性物質により汚染された廃棄物等(汚染廃棄物)を処理するための業務等に係る以下の専門知識を受講修了したことを証明する。

- 放射性物質汚染対処特措法等関連法令
- 放射能の基礎知識・労働安全衛生法、作業者の被ばく防止・除染に関する知識
- 汚染廃棄物等の処理方法に関する知識
- 汚染廃棄物等の測定方法に関する知識
- リスクコミュニケーションに関する知識

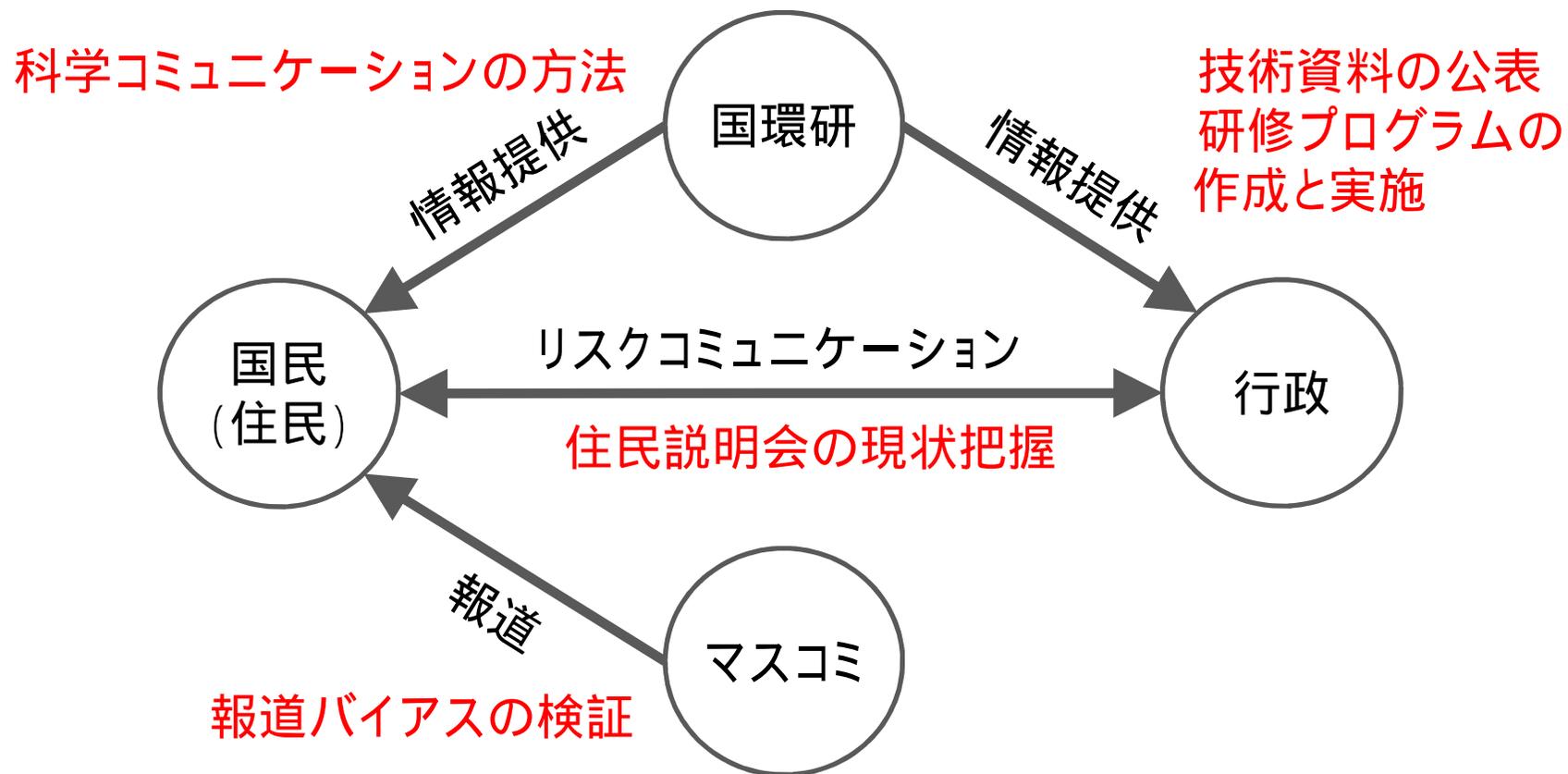
実施年月日	平成25年1月17日～18日	実施機関	独立行政法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター
受講番号	25F001	受講者名	廃棄物・3R研究 財団

交付日 平成25年1月18日

独立行政法人国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター長
大塚誠典

リスコミ社会開発PJ 枠組みと目的

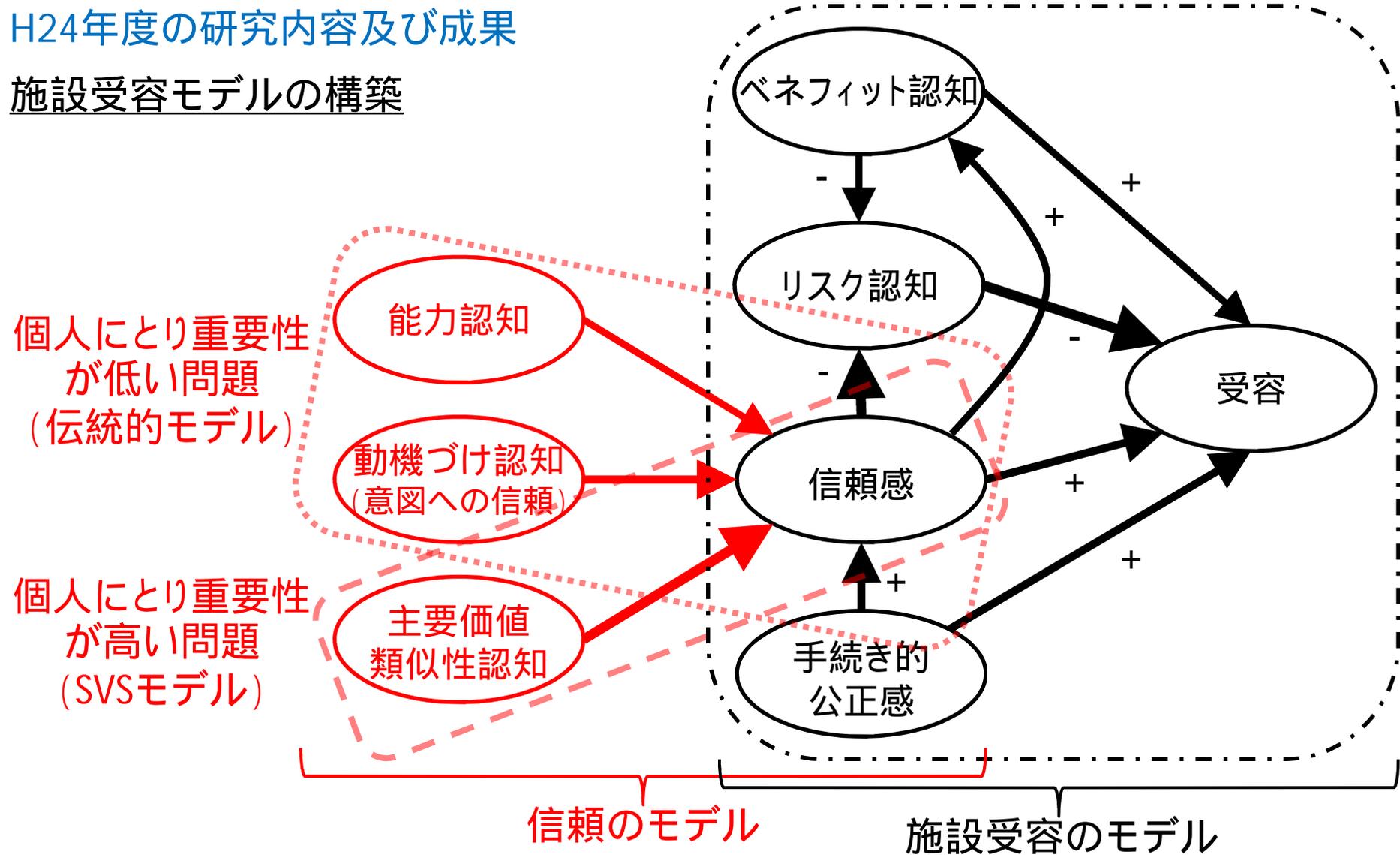
H24年度の枠組みと目的



リスコミの場の現状把握 - 住民説明会を例として - ():サブテーマ1
リスコミの推進に資する情報発信と人材育成():サブテーマ2

H24年度の研究内容及び成果

施設受容モデルの構築



既存の知見と元に、住民説明会を理解する統合モデルを構築

H24年度の研究内容及び成果

施設紛争の事例～手賀沼終末処理場



- 手賀沼終末処理場問題(当時)
 - 経緯・構図
 - ✓ 保管場所確保の要望(市等→県)
 - ✓ 手賀沼(1か所)の提示(県)
 - ✓ 説明会(県→地元議会・住民:各1)
 - ✓ 手賀沼に決定(県)
 - ✓ 反対(地元市)、歓迎(流域市)
 - 論点
 - ✓ 災害への対応(浸水、台風)
 - ✓ 既に下水道汚泥焼却灰保管
 - ✓ 自治体・住民意向軽視(地元理解)
 - ✓ 新たな保管場所の確保
 - ✓ 恒久保管の懸念(処分場確保)

「計画手続き」に係る論点

H24年度の研究内容及び成果

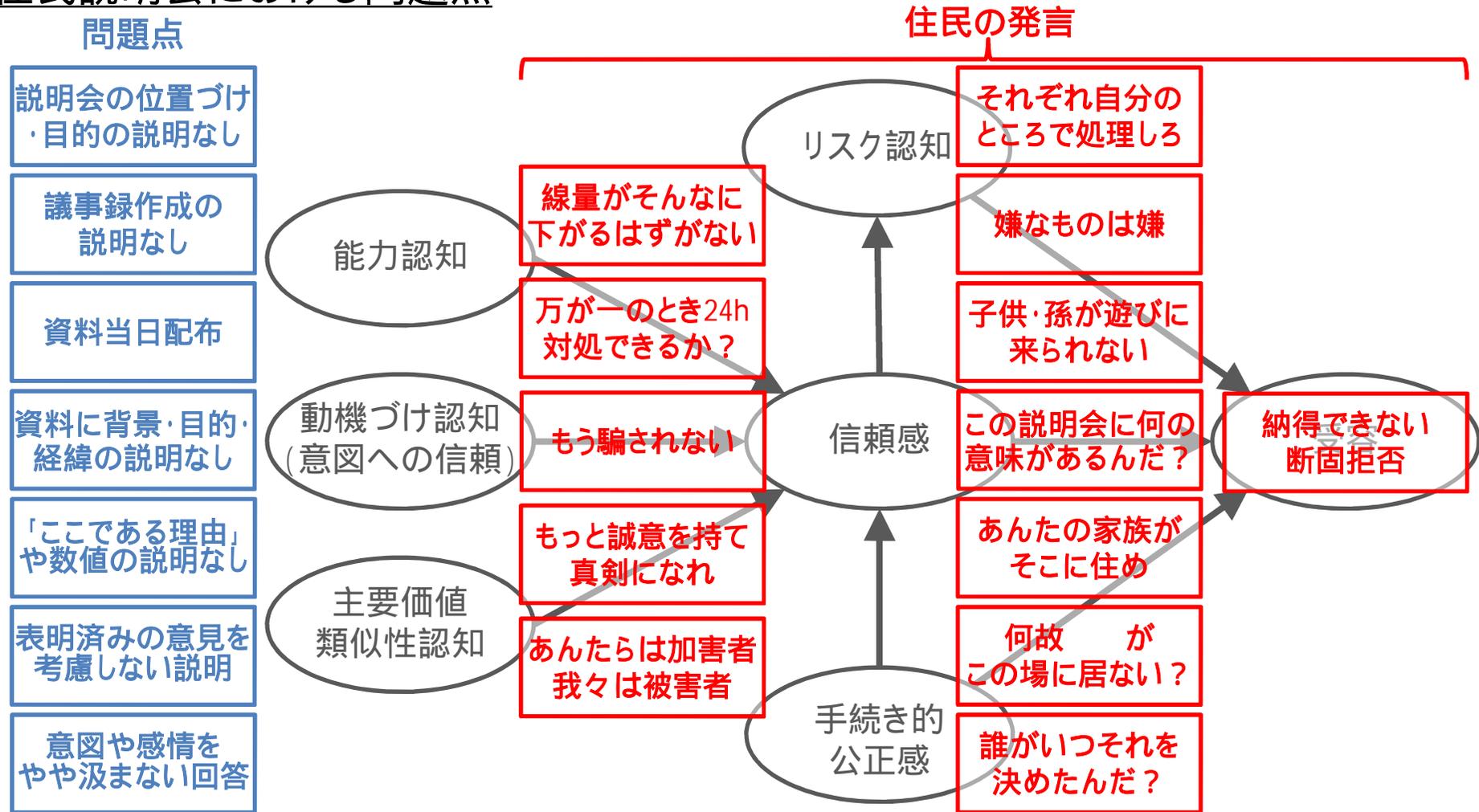
住民説明会の観察結果～手賀沼終末処理場

発言の分類	質問・意見内容の具体例
説明会開催自体への不満	参加者の住居地を限定している 説明会を何度も開け 説明会の運営
資料への不満	資料が難しすぎる、多過ぎる
保管方法、管理方法への不満	200メートルで線引きした理由 天災が起きたらどうするか 技術への不安(環境リスク)
健康問題への不安	健康診断の実施予定はあるのか
間違った科学知識	子どもの健康影響はもう出ている
候補地限定の不満	ここに置くことが前提なのか 各市は各市で保管せよ
最終処分地未決定への不満	最終処分地は決まっているのか
知事不在への不満	知事はなぜ来ないのか 行政への不満(計画手続き)
責任の所在	質問に対して答えていない 風評被害への対処方法は
とにかく反対(意見)	絶対反対、納得できない

質問内容は「計画手続き」「環境リスク」「説明会の運営」に大別

H24年度の研究内容及び成果

住民説明会における問題点



モデルによる住民意見のある程度の体系的理解、信頼の重要性の再確認

H24年度の研究内容及び成果

専門家の情報提供の可能性

質問領域	質問内容	質問割合 (%)	
コミュニケーション手法を提供することで関われる領域	説明会開催自体への不満	22	} 25
	資料への不満	3	
専門知識を提供することで関われる領域	保管方法、管理方法への不満	22	} 30
	健康問題への不安	5	
	間違った科学知識	3	
行政の努力が必要な領域	候補地限定の不満	14	} 37
	最終処分地未決定への不満	4	
	知事不在への不満	5	
	責任の所在	14	
不可避の意見	とにかく反対(意見)	8	8

コミュニケーション手法を提供することで関われる領域

→科学コミュニケーターなどが専門用語を分かりやすく伝える手法等を提供

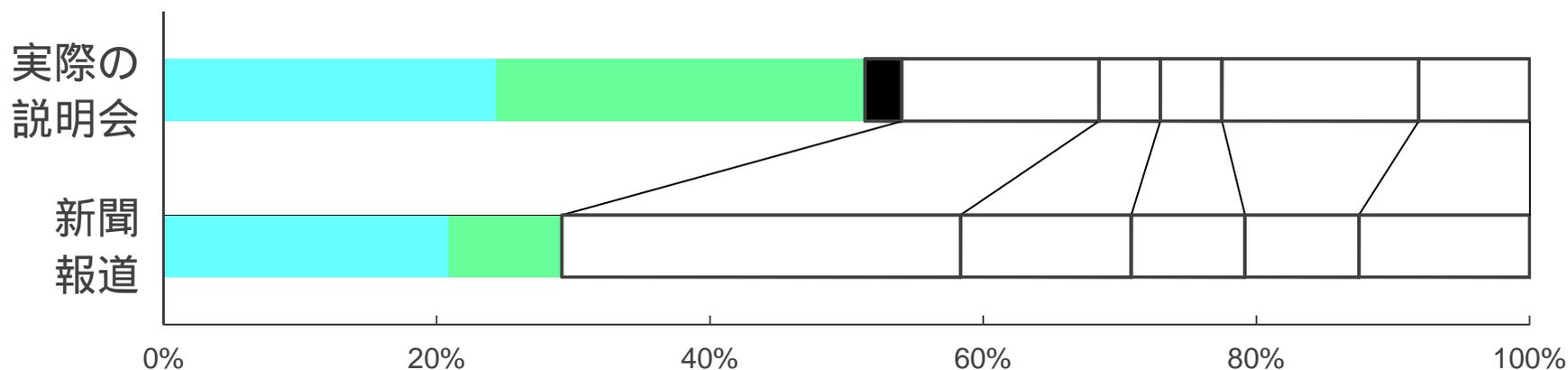
専門知識を提供することで関われる領域

→科学者、専門家が科学的な情報を提供

H24年度の研究内容及び成果

新聞による報道バイアス

質問領域	質問内容	質問割合 (%)	
コミュニケーション手法を提供することで関われる領域	説明会開催自体への不満	22	25
	資料への不満	3	
専門知識を提供することで関われる領域	保管方法、管理方法への不満	22	30
	健康問題への不安	5	
	間違った科学知識	3	
行政の努力が必要な領域	候補地限定への不満	14	37
	最終処分地未決定への不満	4	
	知事不在への不満	5	
	責任の所在	14	
不可避の意見	とにかく反対(意見)	8	8



報道においては、科学的な知見よりも行政への不満を重視する傾向がある

リスコミ社会開発PJ サブテーマ1まとめ

H24年度の研究内容及び成果

より良い住民説明会に向けて

行政のリスクコミュニケーションの重要性に対する認識向上

- ✓ リスクコミュニケーション能力の向上、信頼感の醸成
- ✓ 適切なタイミングでの説明会開催、場の設定工夫、円滑な説明会の進行方法、分かりやすい資料作成、他組織との効果的な連携など

より良い情報発信に向けて

リスコミの場では、行政側、住民側、双方が求めるものが大きく違っている

科学者(専門家)が貢献できる場面は多いが、個別のニーズを知るのは容易ではなく、その場で個別に対応するのも時間的制約等があり難しい

正確な情報を隠さずに出し続ける

根拠のないデマなどを否定し、根気よく説明を行うことも大切

汚染廃棄物等処理への成果活用 / その他行政(国・自治体)への支援

成果活用・行政支援：リスクコミュニケーションの場としての住民説明会等に関する基礎的知見の蓄積に基づく、国や自治体における住民説明会等の設計・運営に関する助言

リスコミ社会開発PJ サブテーマ2 結果とまとめ

H24年度の研究内容及び成果

技術資料、技術資料概要版、Q&A集の作成

対象 →行政の実務担当者

作為方針 →「短く」「見やすく」「簡単に」(技術資料概要版)

- ✓ 技術資料概要版:PPT20枚(技術資料本体は114頁)
- ✓ 概要版目次... 放射性セシウムを含むごみと焼却灰、放射性セシウムと焼却、放射性セシウムと埋立、放射性セシウムの水への溶けだしやすさ、放射性セシウムの土への吸着、放射性セシウムと浸出水の処理

専門家育成セミナーの取り組み

行政ヒアリング調査等を踏まえたプログラム作成

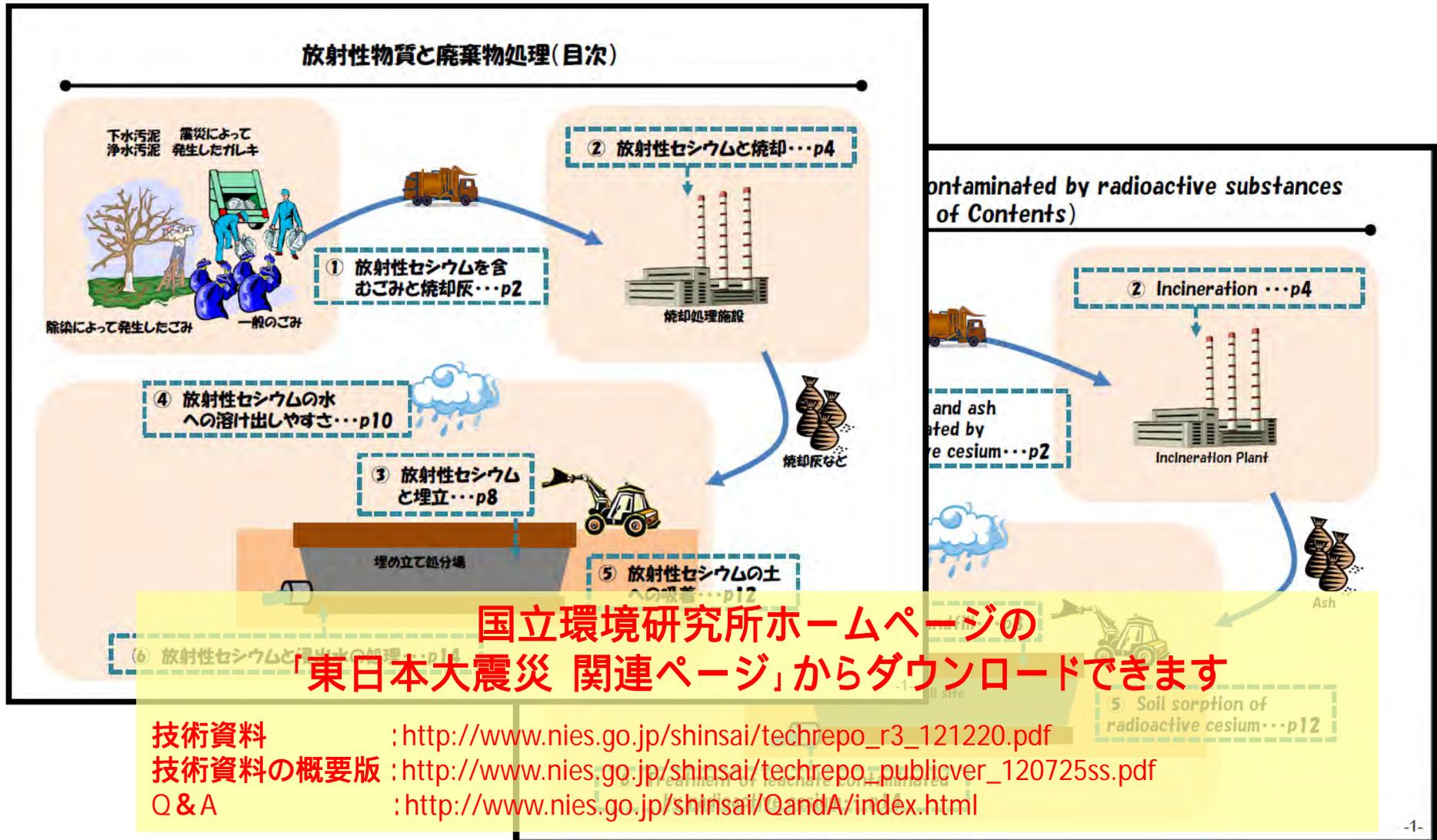
特定一般廃棄物処理専門家育成セミナー(東京、福島各2日)、特定一般廃棄物処理セミナー(東京1日)の実施と参加者の要望のとりまとめ

汚染廃棄物等処理への成果活用 / その他行政(国・自治体)への支援

成果活用・行政支援：行政の実務担当者が住民とのコミュニケーションにおいて活用可能な資料の提供、実務担当者育成方法の検討、調査研究ニーズの把握による今後の支援内容の検討

H24年度の研究内容及び成果

技術資料概要版目次



リスコミ社会開発PJ 今後の展開

今後の展開(案)

熟議型市民参加手法を用いたリスクコミュニケーションの実践と研究

例: 地域復興を目指した森林除染とバイオマス発電

